

私達が守りたい 地域の笑顔と医療の心

地域医療連携室だより

平成27年4月1日から病院名が変わりました！

山本組合総合病院 ⇒ 「能代厚生医療センター」へ！



▲1/20 冬には珍しく青空が見られました。



▲院内に飾り付けの紹介します
1階の廊下 2階健診センター内



▲当院の敷地に花を見つけました(^O^)

<基本理念>

わたしたちは、地域中核病院としてより安全で高度な医療を提供するとともに地域の皆様の健康増進に貢献していきます。

<基本方針>

1. 地域の皆様に信頼され愛される病院づくりを推進します。
2. 医療の質を向上させ、特色ある病院の構築に取り組みます。
3. 心の豊かさゆとりある医療の実践を目指します。

呼吸器内科 副院長 杉山 直幸



当院の呼吸器内科は平成元年5月にできましたので今年で27年になります。開設依頼診療にあたってきました。

かつては冬期間に通院困難や家庭の事情などで、数か月間に渡って半ば社会的入院を希望する患者さんが何人もいました。その人たちを越冬隊と呼んでいたことがありました。その後国の方針により、このような入院はできなくなりました。

また当初は結核病棟があり多いときには同病棟だけでも10数人の長期入院患者さんがいました。その後結核患者さんは徐々に減少し平成14年には結核病棟は廃止となりました。

これで長期入院患者さんが減少するかと思っていました。

ところがこの10年余り長期入院の可能性のある高齢者の肺炎が著しく増加し、また肺癌の患者さんや慢性閉塞性肺疾患や肺線維症による慢性呼吸不全の患者さんも増えてきました。高齢者肺炎については長期入院の増加のためベットコントロールが困難になった時期がありました。これは施設の方々と嘱託医の先生方のご協力に対応することができました。慢性閉塞性肺炎や肺線維症のため在宅酸素療法を必要とする患者さんが高齢者であり、通院困難や在宅での介護も困難な方が少なからずいて、長期入院の増加の原因の一つとなっていました。

これも酸素療法に対応して頂ける施設が増えたことにより状況は改善してきています。現在もっとも対応に苦慮しているのは、病状の安定している肺癌で在宅介護を要するかまたは在宅介護も困難な患者さんです。特に疼痛コントロールを行っている患者さんでは対応していただける施設やクリニックが少ないため、退院できないまま経過してしまう例が多々あります。

がん診療の地域連携が言われていますが、その中でも特に緩和ケアの地域連携が必要と思われます。実際に行うのは大変と思います。当院ではがん緩和研修会を開催していますので、参加していただき理解を深めていただければと思っています。

各種資格取得者の紹介



がん化学療法看護認定看護師 外来化学療法室 田中 富三男
＜今後の目標について＞

たくさんの方々のご支援をいただきながら、H27年に「がん化学療法看護認定看護師」の資格を取得しました。治療を受ける皆様が安心して治療を受けられ、それを支えるご家族の方々も精一杯サポートしたいと思っています。

最近は医療技術の進歩が目ざましいものがありますが、もちろんがん化学療法も例外ではありません。そういった中でこの地域でも、言わば都会に引けをとらない「最新の治療と情報」を提供していきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師 放射線科 後藤 愛季
＜今後の目標について＞

放射線科の後藤愛季です。

昨年、マンモグラフィ認定技師の資格を取得しました。

最近ではマンモグラフィが注目されて検診を受ける人も多くなっていますが、資格を取得するにあたって身につけた知識や技術を活かして、より診断に役立つ画像を提供できればと思っています。また、今後はマンモグラフィだけでなくMRIの乳房撮影なども力をいれていきたいと思っています。



放射線治療専門放射線技師 中央放射線部 金子 大輔
＜今後の目標について＞

私が今回受験・受講した放射線治療専門放射線技師とは放射線治療に専門性を持つ診療放射線技師を、診療・研修実績と試験により認定すると日本放射線治療専門放射線技師認定機構にて定められたものです。

この度、認定資格を取得出来ましたがまだまだ未熟な点が多いのでこれから更に知識・経験を加え、患者さんから信頼される放射線治療技術を提供できる診療放射線技師を目指し努力していきたいと思っています。



超音波検査士 臨床検査科 川端 寛子

<今後の目標について>

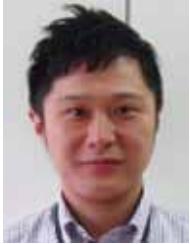
超音波検査士、皆さんはなかなか聞く機会が無いと思います。

今回、超音波検査士の体表臓器領域を取得する事が出来たので、この超音波検査士について少しお話しさせていただきます。

超音波検査士には体表臓器・循環器・消化器・泌尿器・産婦人科・健診・血管の領域があります。

他にも臨床検査技師のみんなが様々な認定資格を取得し、患者様に自分の技術を還元出来る様に日々努力しております。私自身もさらなる領域の取得を目指し頑張ります。

病院では縁の下の力持ち的存在の臨床検査技師ですが、皆様から応援して頂けましたら幸いです。



診療情報管理士 医事企画課 佐々木 翔

<今後の目標について>

診療情報管理士とは、ライブラリーとしての診療録を高い精度で機能させ、そこに含まれるデータや情報を加工、分析、編集し活用することにより医療の安全管理、質の向上および病院の経営管理に寄与する専門職業です。

医療機関の機能分化と連携、情報の開示、安全の確保、医療費の包括化、医療IT化推進など、新しい医療提供体制の改革が進行している中で、重要な役割を担うと考えております。

当院の医療の質の向上だけでなく、能代山本地区・秋田県内の向上に繋がるよう微力ながら貢献したいと考えております。



認定輸血検査技師 臨床検査科輸血検査室 加藤 亜有子

<今後の目標について>

輸血は移植の一種と考えられ、種々の副作用・合併症を伴い易く、輸血治療を行うには深い知識、的確な判断力と技術が要求されます。輸血に関する正しい知識と的確な輸血検査により、輸血の安全性の向上に寄与することのできる臨床検査技師の育成を目的として導入された認定資格です。院内のさらなる輸血療法適正化のため、秋田県内の血液事業の発展と血液製剤適正使用のために学会認定・臨床輸血看護師、学会認定・自己血看護師とともに活動しています。

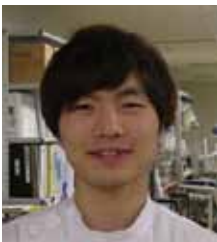


秋田県糖尿病療養指導士の資格を取得して 臨床検査科 佐藤 友美

<今後の目標について>

平成27年度秋田県糖尿病療養指導士の資格を取得しました。糖尿病患者は秋田県でも増加傾向にあります。そのような現状において秋田県糖尿病療養指導士は医師を中心に各専門職種が専門性を生かしながら患者へ治療方針を正しく伝え、食事・運動・薬物療法等患者が自身で自己管理出来るように支援したりします。

今後は糖尿病サポートチームの一員として検査意義の説明等を通じ微力ながらチーム医療に貢献出来たらと思います。



透析技術認定士 MEセンター室 佐藤 翔大

<今後の目標について>

透析のスタッフとして知識を深めること、患者様の透析治療を安全かつ安楽に受けてもらい長い治療生活において少しでもサポートできるようになりたいと思ったので透析技術認定士の資格を取りました。透析治療は一度開始すると、ほとんどの場合恒久的に治療を受けなければならないため今後の生活への不安など心理的なストレスも抱えている人も多いです。そのため少しでも不安を取り除いて、患者様に寄り添った透析治療に関わっていきたいと思っています。

プロジェクトの活動報告

4年目に入った経営改善プロジェクトは、病院の基本方針である「地域の皆様に信頼され愛される病院づくり（患者の視点）」、「医療の質の向上と、特色ある病院の構築（経営の視点）」、「心の豊かさゆとりある医療の実践（職員の視点）」の3つの視点から、多職種からなる6つのチームが計画を立てて、自分たちの目指す病院像を実現することを目指しています。地域の患者さんに質の高い最新の医療を提供するとともに、ゆとりある環境で療養できるような体制を整えていくことを目的の1つとし、今後も取り組みを進めてまいります。

※平成26年度の年報 巻頭言 院長挨拶から引用しました

当院のプロジェクトチームは、

- 愛される病院づくりプロジェクト
- 地域とつながるプロジェクト
- 病床管理プロジェクト
- 業務効率化プロジェクト
- 職員のためのプロジェクト
- 情報発信プロジェクト

6つのプロジェクトチームがあります。

今回はそのうちの3チームの紹介をさせていただきます。

愛される病院づくりプロジェクト

当プロジェクトは、「愛される病院」を目標にして、入院・外来患者さんから御協力して頂いたアンケートや職員の「声」をもとに、チームで病院のための様々な案件を討議しています。

チームで討議した案件は管理者会議に提案し採用されたものは、実施後もチームでフォローし患者さんを中心とした院内の人々の為のより良い環境を作って行きたいと思っています。

昨年度採用され実施された提案として

- ・外来患者出庫票のカルテ庫より各科配送から各科への送信・出力へ（患者さんの受付後のロスタイム解消・総合受付業務の効率化）
 - ・病院コンシェルジュの配置（正面ホールでの外来患者さんの為の案内等のサポート、サービス向上）
 - ・接遇チームの設立（院内接遇の見直し、接遇講習会等企画）
 - ・外来患者さん待ち時間対応として、病院玄関前での出店募集や会計待ち対応窓口案内を設置。
- などを行っています。



開業医の先生や他施設のスタッフ方々の「声」も参考に出来たらと思っておりますのでアンケート等での協力宜しくお願いします。

地域とつながるプロジェクト

■目的

「地域住民から信頼され、愛される病院となるため、人と人との繋がりを大切する」を目的に他の医療機関、介護施設、地域の皆様とつながりが強められるように活動する。

■活動報告

1. 地域の皆様が一目で「かかりつけ医」を知ることができる、「かかりつけ医マップ」を外来中心に掲示
2. ケアマネジャーとの情報交換会の開催
3. 地域の医療機関との親睦会の開催
4. 協力施設との情報交換会の開催

■今後の活動

1. 地域の方と話合う場を設け、地域の声を聴く
2. 診療科の先生方の開業医への訪問

医師をはじめメディカルメンバー15名で「地域住民から信頼され、愛される病院となるため、人と人との繋がりを大切する」を形にしていくために取り組んでいきます。



職員のためのプロジェクト

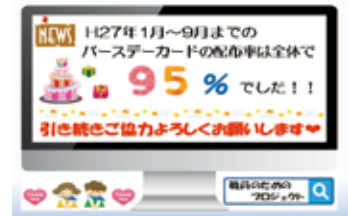
■目的

職員のためのプロジェクトは、「職員一人一人が、楽しく働く環境づくり」を目的に活動しています。（H26年8月活動開始）職員の「声」を大事に活動するため、職員満足度調査・職員ご意見箱の設置・プロジェクトメンバーの定期院内ラウンドで職員の意見や声を捉える仕組みを取っています。

■活動報告

1. 誕生日メッセージカードの運用

- ・平成27年1月～開始：働く全職員へ感謝の思いを伝える誕生日カードとプレゼント（ドトール券）を配付している。「ハッピーな気持ちになれる」と職員に喜ばれています。現在は100%となっています。
- ・カード配付率調査結果はデジタルサイネージで情報発信しています。



2. 部署ラウンド

- ・時間外請求しやすい環境への啓蒙活動を主体に現状把握と定時帰宅できる対策のベース作りに努めている。
- ・プロジェクトメンバーが17時以降に一斉ラウンドを実施、残業している全職員に聴き取り調査しています。（3回/年）職員からは、「時間外請求しやすい環境」へと変化し好評価を得ています。



検査科調査風景

■今後の活動

- ・職員満足度調査予定

アンケート・実際の声を聞きだし新しい取り組み・活動を提案・実施していきたい。

能代厚生医療センターとして病院が発展・成長するために、職員の満足度向上に今後も取り組んでいきます。プロジェクトメンバーもより良い職場環境作りのために頑張ります!(^^)!

地域の開業医の紹介



山須田医院 院長 山須田 健 先生

旧山本組合総合病院消化器科で6年勤務した後、能代市花園町に開業して昨年で25周年を迎えました。当時同僚だった先生方の多くは定年や開業、移動をしておられ、今では呼吸器内科の杉山直幸副院長だけとなり、時の流れをしみじみ感じています。それでも当時は若かった職員が病院を背負うような役割を担っており、会合でお会いした機会には声をかけていただくことがあり、懐かしくうれしく感じているところです。

能代厚生医療センターは医師の増員や診療内容の充実そして療養環境の改善などをはかり、ますます市民からの信頼を得て発展を遂げています。そして地域の医療機関がそれぞれの役割を分担し互いに円滑な連携ができるようにと「地域医療連携室」を立ち上げました。患者さんの紹介予約はますますスムーズとなり、救急受診紹介においても早急に対応していただいています。また紹介患者に関する情報や検査の報告を確実に、そして丁寧にご返事いただき、開業医としての研鑽にも役立っています。

25年前、消化器疾患と糖尿病を主として診ていくつもりで開業しましたが、次第に「なんでも屋の開業医」となっておりました。今後ともよろしくお祈りいたします。



「緩和ケア市民公開講座」開催

平成27年12月12日(土)～「つらい」と言える社会のために～をテーマに、NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会理事長松本陽子先生を講師に迎え、キャッスルホテル能代にて緩和ケア市民公開講座が開催されました。

家族の死の間際に本当の話ができなかった後悔や、アナウンサーとして活躍中ががん告知を受けた衝撃、苦悩を語っていただきました。愛媛県松山市でのがん患者のための町中サロンの運営を通し、亡くなった仲間の生き方・メッセージなどを紹介しながら、患者さんには「受け身にならず、自分の病気のことを学び自分のしたいことを考えてほしい。そして、自分の思いや状況を周りの人に話してください。」と語りかけ、医師には「検査の数値だけでなく、揺れ動く心の変化も尋ねてください。」と話されました。

講演を聞き、医療者としての自分を振り返るよい機会になったと感じました。



能代山本地域在宅支援情報交換会

2月16日当院にて能代山本地域在宅支援情報交換会を開催しました。今回で5回目となり、44名の出席を頂きました。当院からは、居宅支援事業所、訪問看護、医療福祉相談室、退院調整看護師、地域医療連携室が出席し、当院からの情報提供として「当院における地域包括ケア病棟について」のミニ講演を行い、その後「患者さんが安心して地域へ戻るために」をテーマにワールドカフェ方式での情報交換意見交換を行いました。ここでは、患者さんが在宅療養を希望しても往診医師がいない、看取りをしてくれる医師がいない、高齢夫婦世帯、独居家庭内の問題等でなかなか安心して地域に戻れないなど多くの問題点が上げられました。それぞれが難しい問題で簡単に解決できることではありませんが、今回の意見交換を通して、患者さんが地域へ戻るための問題点や課題などを共有できた有意義な意見、情報交換会でした。



今後の研修会の紹介

乾癬ネットワーク in 能代

2016年3月18日(金) 19:00~19:45

能代厚生医療センター 2階 講堂
秋田県能代市落合字上前田地内
TEL. 0185-52-2111

講演者: 近田 雄一 先生
(能代厚生医療センター 院長)

司 長: 小松田 敦 先生
(秋田大学医学部 皮膚・性病・膠原病内科 准教授)

「乾癬の診断と治療」

特別講演: 澤村 大輔 先生
(秋田大学医学部附属病院 皮膚科 教授)

+講演会終了後、おげきも準備しております。

主催: 能代三賢製薬株式会社

経路障害治療フォーラム in 能代

期 日: 平成28年4月12日(水) 10:00~

期 間: プラザ館 4F 海響のホール
秋田県能代市落合字上前田地内

期 日: 19:00~19:30

期 間: 能代厚生医療センター 2階 201 号一室 先生

「在宅」

期 日: 2月16日(土) 19:00~19:45

期 間: 能代厚生医療センター 2階 201 号一室 先生

主催: キッセイ薬品工業株式会社
後援: 能代厚生医療センター

能代厚生医療センター 地域医療連携室

〒016-0014 能代市落合字上前田地内 TEL 0185-54-8893 FAX 0185-54-8894

<http://yamamoto-hosp.noshiro.akita.jp>